

第 63 回 びわ湖開き

大津まちなかお店めぐり

～春の訪れを感じる素敵な出逢いや大津のまちの魅力の発見に出掛けませんか～



主 催: 大津まちなかもりあげ隊

協 力: (公社)びわ湖大津観光協会

大津は湖上交通の要として、東海道の宿場町として大いに賑わった歴史があります。歴史の中で育まれた伝統・文化を伝える老舗や町家が残されています。大津港から大津まちなかを歩きながら、伝統のあるお店や名所を訪れ、まちなかの魅力や素晴らしさを楽しんで頂きます。皆様のご参加をお待ちしています!

◆ 日 時: 3月10日(土) 10時50分～12時30分(予定)

◆ 集合場所: 大津港乗船場(10時45分集合)

◆ 参加費: 無料(先着30名様)

◆ コー ス(約2km): 大津港～大津城～三井寺力餅(見学)～九重味噌～光風堂菓舗
～(大津百町物語)アンリ・シャルパンティエ～八百与(見学)～タニム水産(見学)～阪本屋～札の辻
～鶴里堂～大津事件の碑～魚忠～餅兵(見学)～平井酒造～大津まつり曳山展示館(見学)～大津百町館(解散)



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆見どころ&クエスチョン(?)☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<p>大津城(史跡のみ)</p> <p>1586年頃豊臣秀吉の命により築城されました。関ヶ原の合戦時には、浅井三姉妹の次女お初が嫁いだ京極高次が居城していました。関ヶ原合戦時、京極高次は、東軍(お江)西軍(茶々)どちらに付いたでしょうか(?)</p>	<p>三井寺力餅</p> <p>力餅は「味、美、彩」と手づくりの粋を兼ね備えた伝統ある大津の名物です。年中無休、朝7時より営業しています。ギャラリーでは、「大津絵」や「大津そろばん」、浜大津周辺の昔の写真が展示されています。「三井寺力餅」と名付けられた由来となる僧の名は(?)</p>	<p>大津百町物語</p> <p>アンリ・シャルパンティエ 多くの文人を魅了した、おしゃれな街「芦屋」で育ったお菓子屋さん。大津中心市街地のにぎわい再生を目指す「百町物語」の取組に賛同し、お菓子による町おこしを目指してオープン。店名に「アンリ・シャルパンティ」と名付けた由来は(?)</p>	<p>八百与</p> <p>寛永3年創業、昔からの伝統を守り、季節に応じた旬の漬物を手づくりで製造販売しています。大正期からの宮内庁御用達覚書や法事大福帳など伝統を伝える資料を所蔵しています。第3代滋賀県知事が名付けたと言われる伝統の逸品は(?)</p>
<p>タニム水産</p> <p>明治30年創業、琵琶湖で朝とれた新鮮な湖魚を、昔ながらの料理法で調理しています。旬の魚や佃煮を始め、愛知直送のうなぎの炭火焼、自家製の鮎ずしなど数多くの商品を揃えた川魚専門店です。琵琶湖は世界有数の「古代湖」です。琵琶湖と名付けられた名前の由来は{?}</p>	<p>札の辻</p> <p>江戸時代、東海道、北国海道の分岐点に当たり、多くの旅人が行き交う大津宿の中心街です。「札の辻」の名は幕府の法令を書いた「高札場」のある辻であったことに由来します。京都から大津宿へ入り、札の辻までの東海道筋は何通りと呼ばれていたのでしょうか(?)</p>	<p>鶴里堂</p> <p>大津菓子調進所と名が表す通り、大津菓子の伝統を伝える和菓子の老舗です。餡は小豆からの自家製餡、大津の四季の移ろいを表現した生菓子を中心に、相伝の技を伝える大津ならではの和菓子が用意されています。「鶴里堂」という屋号は何に因んで名づけたのでしょうか(?)</p>	<p>大津事件の碑</p> <p>明治24年、日本を訪問中のロシア皇太子ニコライが警備に当たっていた津田巡査に突然サーベルで切り付けられ負傷した所です。当時大ロシアの皇太子を負傷させたとして、日本国中が大激震となりました。事件後、大審院が津田巡査に下した判決は(?)</p>
<p>餅兵</p> <p>江戸時代、東海道の旅人の憩いの場として、宝暦年間(1751年頃)餅屋兵祐(もちやひょうすけ)が創業し、代々の製法を大切に、昔ながらの和菓子や季節のオリジナル菓子づくりに取り組んでいます。大いに賑わっていた店の前の通りの今の名は(?)</p>	<p>平井酒造</p> <p>大津で酒造り340余年の歴史を持ち、地元産の酒米と昔ながらの手づくりにこだわる「地産地消」の酒蔵で、蔵元自らが杜氏として仕込んでいます。後水尾天皇皇子聖護院宮道寛親王より賜った和歌の枕詞より命名した銘柄の名は(?)</p>	<p>大津祭曳山展示館</p> <p>大津の町人文化の象徴である伝統行事「大津祭」の曳山(原寸大)を展示しています。大津祭りでは13基の曳山が巡行しますが、「クジ取らず」と言い、毎年先頭を引く曳山の名前は(?)</p>	<p>大津百町館</p> <p>百年以上前に建てられた町家で、母屋、蔵、離れと中庭で構成されています。大津には今でも多くの町家が残されており、この町家は「百町館」として地域の方々により活用されています。「百町館」と呼ばれる名前の由来は(?)</p>